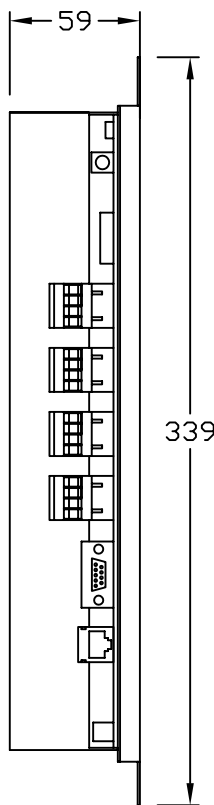
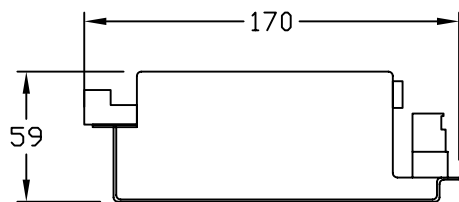


前面図



側面図



見上図

単位：mm

※H4P5-H48-JAを例とする  
(H4P5-JAには左側マエストロバスがありません)

**製品概要**

ホームワークス4シリーズプロセッサは、ホームワークスシステムのセントラルプロセッサで、設定変更可能なリンクを3つ、RS232Cポートを1つ、イーサネットポートを1つ、さらにH48タイプ(H4P5-H48-100)はホームワークスマエストロ接続バスを6つ搭載しています。ホームワークスキーパッド、ホームワークスマエストロ、ウォールボックスパワーモジュール、グラフィックアイ3500シリーズの各機器を接続できます。本器は、各調光機器のレベル・機能設定、年間タイマー、セキュリティモード、バケーションモード等、ホームワークスの全ての機能を搭載しています。また、停電時にも揮発性メモリーにより設定等は全て保存されます。

**製品詳細**

- リンク2 : ホームワークスプロセッサ同士の接続に使用(最大16台)
  - リンク3 : RS232Cの入力に使用(D-sub9ピン・オス)
  - リンク4~6 : ホームワークスキーパッド、グラフィックアイ3500シリーズ、追加H48インターフェースのいずれか
  - リンク9 : イーサネット(LANケーブル接続用)
- ※リンク1、7、8はありません。  
※キーパッドには電源が必要になります。リンク6からは電源が出力されますが、他のリンクを使用する場合は別途電源が必要になります。

**特記事項**

1. 本器にはホームワークスプロセッサやその他の精密機器が接続されますので、必ず独立した電源回路を使用して下さい。
2. トランスの2次側からルートロンホームワークス専用機器以外へ電源を供給しないで下さい。
3. 本製品は若干の熱を発生します。カバー部の通気孔をふさがないで下さい。また、本製品前面には305mm以上のスペースを空けて下さい。
4. 本器の設置は垂直として下さい(傾斜角度±7°以下)。
5. 本器は、45kg以上の重さに耐えられる壁に設置して下さい。
6. 一般屋内のみにて設置・使用してください。水気の多い場所、粉塵の多い場所には設置しないでください。
7. システム設定時等に本器を操作・確認しますので、手の届かないような場所には設置しないで下さい。
8. 仕様は予告無しに変更することがあります。

**定格・仕様**

種類	ホームワークス・4シリーズ・プロセッサ
定格電源	プロセッサ本体 : DC12V 30VA リンク6 : DC15V 0.9A
最大消費電力	30VA
接続機器	ルートロンホームワークス専用機器のみ
使用周囲温度範囲	0℃~40℃ (一般室内取付専用)
使用周囲湿度範囲	相対湿度 90%以下 (無結露)
使用電線	別紙(ページ2)参照
取付け方法	壁掛式(専用エンクロージャ/HW1-LV24/別途)
プロセッサキャビネット材質	鉄

<p><b>LUTRON</b> ルートロン アスカ株式会社</p>	H4P5-JA H4P5-H48-JA	REVISION	1.1
		RELEASED	2008.8.29
		PAGE	1/4
承認	(高橋)	検図	(細谷)
		作成	(谷崎)
ホームワークス 4シリーズ プロセッサ 仕様書			

## 取付・接続方法

本器は、HWI-LV24エンクロージャに取り付けて使用します。  
配線詳細は4ページを参照下さい。

### 1. 取付確認

HWI-LV24エンクロージャが頑丈な壁面にしっかり取り付けられていることを確認して下さい。

### 2. 本体の取付け

付属のねじを使用し、本器をHWI-LV24エンクロージャに取り付けます。なお、本器はLV24エンクロージャの左上の位置になります(図1参照)。

### 3. アドレス設定(システム内に複数のプロセッサがある場合のみ)

DIPスイッチでプロセッサのアドレスを設定します。工場出荷時のアドレスは1です。詳細は図3を参照して下さい。

### 4. マエストロバスの接続(H48インターフェースがある場合)

ホームワークスソフトウェアでの設定に従い、ホームワークスマエストロを各マエストロバスに接続します。昭和電線社製LW221Sまたはベルデン社製87761を使用して下さい。一筆書き配線、分岐配線のいずれも使用できます。線色については図4を参照して下さい。

### 5. H48インターフェースの接続

H4P5-H48-JAには、リンク4に出荷時に内蔵のH48インターフェースが接続されています。さらにH48インターフェースを増設する場合、もしくはH4P5-100にH48インターフェースを接続する場合は、ルートロンGRX-CBL-346Sを使用のうえ一筆書き配線とし、リンク4の端子にて共挟みとして下さい。この際、2番端子は接続しないで下さい。なお、このリンクが15m以上になる場合、リンク始端・終端の端子3(MUX)と4(MUX)に終端抵抗(LT-1)を接続して下さい。線色については図5を参照して下さい。

### 6. プロセッサリンクの接続(複数のプロセッサパネルがある場合のみ)

複数のプロセッサがある場合、ルートロン4芯ケーブルGRX-CBL-346Sを使用のうえ一筆書き配線とし、リンク2の端子にて共挟みとして下さい。この際、2番端子は接続しないで下さい。なおリンク始端・終端の端子3(MUX)と4(MUX)に終端抵抗(LT-1)を接続して下さい。線色については図5を参照して下さい。

## 最大接続可能台数早見表

### プロセッサ

1システム内のプロセッサ最大連結可能台数	16台
ホームワークスマエストロ(H48インターフェースがある場合のみ)	
1バスあたりのホームワークスマエストロ最大連結可能台数	8台(リモートは含まず)
H48インターフェースあたりのホームワークスマエストロ最大連結可能台数	48台(8台×6バス)
プロセッサ1台あたりのH48インターフェース最大接続可能台数	12台

### キーボード

1キーボードリンクあたりのキーボード最大連結可能台数	32台 (10台以上は別途DC電源要)
プロセッサ1台あたりのキーボードリンク最大設置可能数	3リンク <sup>※1</sup>

### グラフィックアイ

1リンクあたりのグラフィックアイコントロールユニット最大連結可能台数	8台
1リンクあたりのグラフィックアイ補助コントロール最大連結可能台数	15台
プロセッサ1台あたりのグラフィックアイリンク最大設置可能数	3リンク <sup>※1</sup>

※1 リンク4/5/6全てを使用した場合

### 7. GRXリンクの接続

グラフィックアイ3000シリーズ/ウォールボックスパワーモジュールを、ソフトウェアでの設定に従い、リンク5またはリンク6に接続します。ルートロン4芯ケーブルGRX-CBL-346Sを使用のうえ一筆書き配線とし、端子上で共挟みとして下さい。この際、2番端子には接続しないで下さい。線色については図5を参照して下さい。

### 8. キーボードリンクの接続

ホームワークスキーボードを、ソフトウェアでの設定に従いリンク6に接続します。ルートロン4芯ケーブルGRX-CBL-346Sを使用して下さい。一筆書き配線、分岐配線のいずれも使用できます。リンク6にはプロセッサから各キーボードへの電源供給がありますので、キーボードは通常リンク6に接続するようにして下さい。但し、この電源の容量はキーボード10台分ですので、それ以上のキーボードを接続される際は別途DC15V外部電源が必要になります。線色については図5を参照して下さい。

### 9. 電源の接続

HWI-LV24エンクロージャから出ている電源ハーネス(青色/2線)を、プロセッサ用電源入力端子に接続します。また、エンクロージャに付属しているACアダプターをエンクロージャ内のコンセントに挿し、リンク6用電源入力端子に接続します。

### 10. ブレーカー電源を入れる

ブレーカーを上げて電源を投入して下さい。なお、エンクロージャに電源を供給しているブレーカーは、長期不在の際なども遮断しないようにして下さい。

### 11. リンク3、RS232機器の接続

RS-232制御機器を本器のリンク3に接続します。接続コネクタはD-sub9ピン/オスを使用して下さい。

### 12. リンク9、イーサネットリンクの接続

LAN配線を使用する外部PCやネットワークなどをリンク9に接続します。外部PCなどを直接接続する場合はRJ45クロスオーバーLANケーブルを、ネットワークに接続する場合はストレートタイプのLANケーブルを使用して下さい。外部機器を認識すると緑色のLEDが、データの通信があるとオレンジ色のLEDが点灯します。

## 各リンクの仕様早見表

リンクの種類	プロセッサ1台あたりの最大設置数	配線方法	使用推奨ケーブル	最大配線長	終端抵抗LT-1
プロセッサリンク	1	一筆書き	GRX-CBL-346S	150m <sup>※2</sup>	要
グラフィックアイリンク	3	一筆書き	GRX-CBL-346S	150m <sup>※2</sup>	不要
イーサネットリンク	1	1対1のみ	市販のLANケーブル <sup>※3</sup>	ケーブルによる	不要
RS232リンク	1	1対1のみ	市販のRS232ケーブル	150m	不要
キーボードリンク	3	一筆書き/分岐	GRX-CBL-346S	計1200m <sup>※4</sup>	不要
H48インターフェースリンク	3	一筆書き	GRX-CBL-346S	300m	要 <sup>※6</sup>
マエストロバス	72 (24×3)	一筆書き/分岐	昭和電線社製LW221S またはベルデン社製87761	計300m <sup>※5</sup>	不要

※2 ルートロンGRX-CBL-46L使用時は最大600mまで延長可。

※3 PCとの直接接続にはクロスケーブル、ネットワークへの接続の場合はストレートケーブルを使用。

※4 各分岐点からの最大延長は300m以内、リンクの合計総延長は1200m以内。

※5 各分岐点からの最大延長は150m以内、リンクの合計総延長は300m以内。

※6 総配線長が15mを超える場合のみ





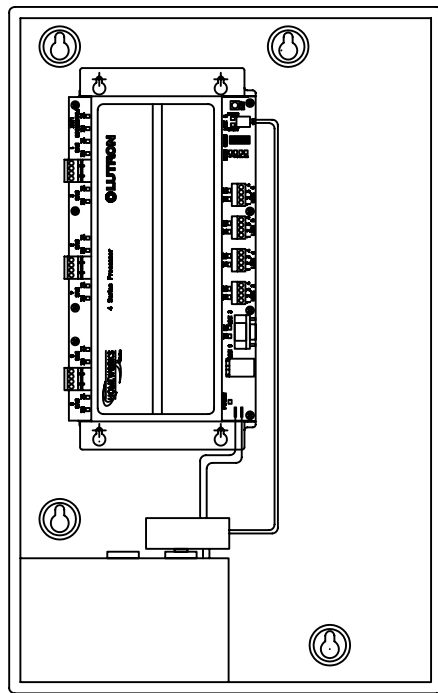
 ルートロン アスカ株式会社		H4P5-JA		REVISION	1.1
		H4P5-H48-JA		RELEASED	2008.8.29
承認	 高橋	検図	 細谷	作成	 谷崎
ホームワークス		4シリーズ		プロセッサ	
仕様書					
PAGE		2/4			

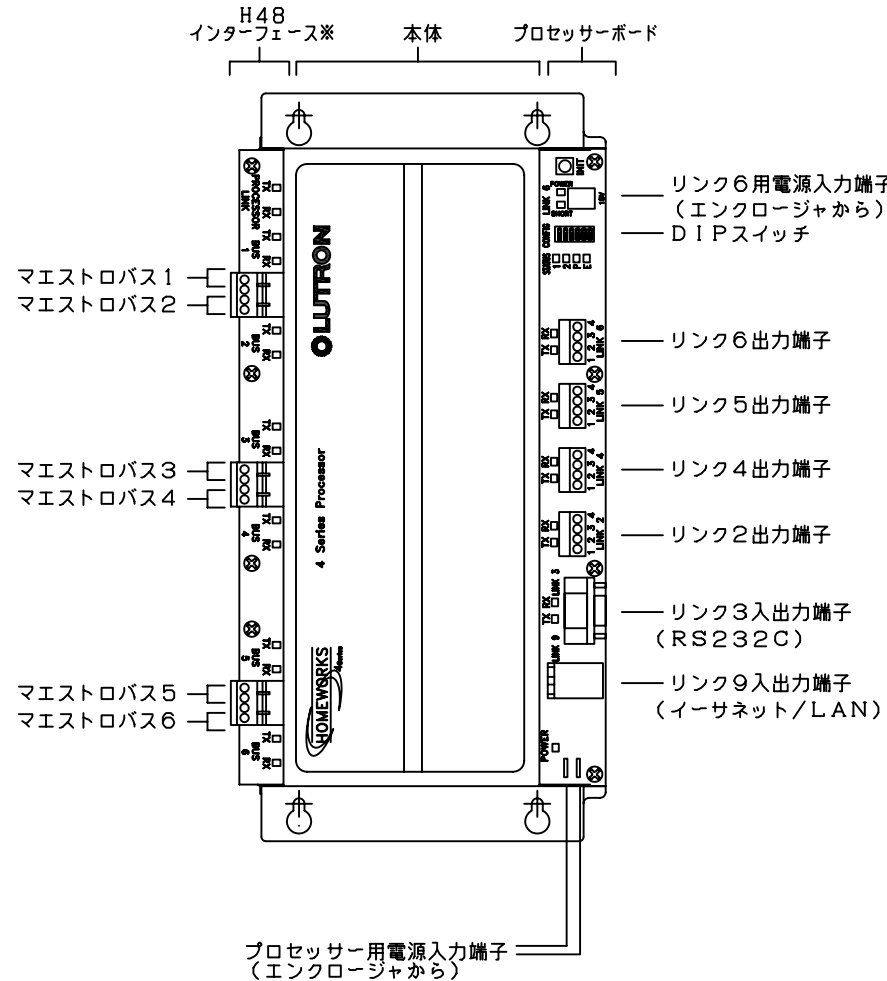
図1 HWI-LV24内収まり図



HWI-LV24エンクロージャ

H4P5-H48-JAを例とする

図2 各部名称



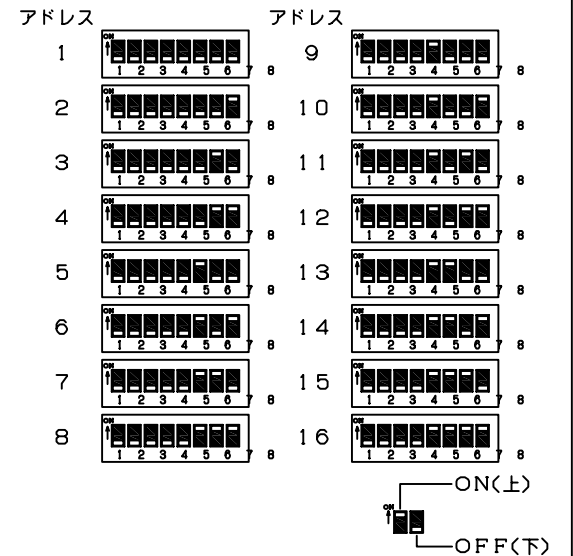
H4P5-H48-JAを例とする

※H4P5-JAには左側マエストロバスがありません)

図3 DIPスイッチ設定

DIPスイッチ1~4は工場出荷時に設定されていますので、通常変更する必要はありません。変更の際は弊社までお問い合わせ下さい。

DIPスイッチ	機能	位置
1	ブートモード切替	ホームワークスソフトウェアからブートする場合を除き、常時下にして下さい。
2	診断モード	常時下にして下さい。
3	ボーレート切替	9600Baudに固定する場合を除き、常時下(自動認識)にして下さい。
4	バッテリー遮断	常時下にして下さい。
5-8	プロセッサのアドレス	下表を参照して下さい。 (複数のプロセッサを連結する時のみ)



H4P5-JA  
H4P5-H48-JA

REVISION	1.1
RELEASED	2008.8.29
PAGE	3/4

承認	高橋	検図	細谷	作成	谷崎
----	----	----	----	----	----

ホームワークス 4シリーズ プロセッサ  
仕様書

